



# 債権・債務

# 使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

# 目次

1. 債権・債務とは？
2. 借入金・貸付金
3. 手形借入金・手形貸付金
4. 未収金・未払金
5. 仮払金・借受金
6. 立替金・預り金
7. 商品券
8. 貸倒引当金



今回は私が案内するよ！

今回は債権・債務について  
説明する。

# 1. 債権・債務とは？

さて、今回は

**手形** <http://boki3.source-of-information.com/bus-jour/bill.html>

**商品売買** <http://boki3.source-of-information.com/bus-jour/trading.html>

で説明しなかった残りの債権・債務についてあらかじめ説明していくよ。

特に貸倒引当金については試験では必ず出る範囲なので、しっかり理解して欲しい。

それでは、まずは債権・債務とは何か、改めてみてみよう。



# 1. 債権・債務とは？

**債権**: あとでお金をもらえる権利、資産に属する

**債務**: あとでお金を払う義務、負債に属する

ということだった。

だから、勘定があとでお金をもらえる権利なのか、  
後でお金をはらう義務なのかを考えれば、資産か負債かは  
丸覚えしなくても済むということなんだ。

例えば、あとで「**預り金**」という勘定を扱うけど、意味を考えれば  
[債権＝資産]・[債務＝負債]のどちらかわかるよね？  
あくまで預かって言うお金なので、「返して！」といわれたら  
その分のお金は返さなければいけないということだよな。  
...ということはあとでお金を払う義務があるということなので、  
債務＝負債なんだね。



## 2. 借入金・貸付金

さて、借入金・貸付金についてだけど、これはあらためて説明する必要はないよね。

文字通り、

**借入金**: お金を借りたときに使う負債勘定

**貸付金**: お金を貸したときに使う資産勘定

この借入金・貸付金で重要なのは、これらの勘定は利子が関係するということだ！

ただでお金は借りれないし、貸さないの、その分の利子が発生するんだ。

ここまではいいよね？

では、借入金から実際の例を見ながら理解しよう！



## 2. 借入金・貸付金

B商店はA社から現金¥200,000を借り入れた。

もちろん、  
資産の増加

(借方) 現金 200,000 (貸方) 借入金 200,000

負債の増加

負債の減少

B商店は上記の借入金を利息¥10,000とともに現金で返済した。

費用の発生

(借方) 借入金 200,000 (貸方) 現金 210,000  
支払利息 10,000

資産の減少



借入金の利息を支払うときには支払利息という費用の勘定を使う。

借入金と利息の分を一緒に支払っているの、合計210,000の現金を支払っているのを理解してほしい！

次に、貸付金を考えるよ。



## 2. 借入金・貸付金

A社はB商店に現金 ¥200,000を貸し付けた。

資産の増加

(借方) 貸付金 200,000 (貸方) 現金 200,000

資産の減少

A社は上記の貸付金を利息 ¥10,000とともに現金で返済を受けた。

資産の増加

(借方) 現金 210,000 (貸方) 貸付金 200,000

資産の減少

受取利息 10,000

収益の発生

貸付金の利息を受け取ったときには受取利息という収益の勘定を使う。

貸付金と利息の分を一緒に受け取っているので、合計210,000の現金を受け取っているということをイメージして欲しい。



# 3. 手形貸付金・手形借入金

次に、手形貸付金と手形借入金だ。

さきほどの貸付金・借入金というのは、お金を貸し借りするときに借用証書を出して借りるんだ。  
これはわかりやすいよね。

で、手形を使つての貸付金・借入金というのは、約束手形を使うことでお金の返済を約束するものなんだ。  
もうちょっと詳しく見てみる。

約束手形って言うのは  
「〇年〇月〇日までに、××円お支払いします」  
と約束して、商品を仕入れたりに使うんだけど、  
「〇年〇月〇日までに、××円お支払いします」  
ってことは商品だけじゃなく、お金を借りるときにも使える！  
ということで行われるのが手形貸付金・手形借入金なんだ。

本来の  
約束手形の  
使い方

約束手形の  
性質を利用  
している！



# 3. 手形貸付金・手形借入金

手形貸付金・手形借入金の処理は、約束手形を使って  
お金の貸し借りをして、勘定科目が異なること以外は、  
貸付金・借入金の処理と同じだ！  
だから、利子の処理も当然発生する。

じゃあ、なんでわざわざ手形を使った貸付金・借入金を  
借入金・貸付金や支払手形・受取手形と別にするかわかるかな？

もちろん、ちゃんとした理由があって使い分けているんだ！

いままでの知識を生かして考えてみて！



# 3. 手形貸付金・手形借入金

支払手形・受取手形：商品売買に使う  
借入金・貸付金：お金の貸し借りに使う  
手形借入金・手形貸付金：お金の貸し借りに使う

では、手形を使う借入金・貸付金と使わない借入金・貸付金の  
どこが異なるのか？

約束手形を使うことによって

- ・支払期日を明らかにする
  - ・裏書や割引ができ、2者だけの話ではなくなる
- などの理由から、より強い強制力を持つんだ。

試験に出るところではないんだけど、理解の手助けとして欲しい。



# 3. 手形貸付金・手形借入金

A社はB商店に¥300,000を貸し付け、同額の約束手形を受け取った。その際貸付金は利息分15,000円を差し引き、  
B商店については小切手を振り出して引き渡した。

資産の増加

資産の減少

(借方) **手形貸付金 300,000**      (貸方) **現金 285,000**  
**受取利息 15,000**

収益の発生

処理自体は貸付金・借入金と共通するので、深く説明する必要は無いと思う。

ぜひ、仕訳をしっかりと理解して欲しい！

次は未収金・未払金について説明する。



# 4. 未収金・未払金

簿記は商売の内容を正しく表すものでもあるから、  
・商品関係の取引  
・商品以外の取引  
に分けて考えることが多い。  
未収金と売掛金の違いは、これにあたる。

未収金・未払金とは、商品売買以外のツケに使う勘定  
という表現が一番すっきりするかな？

売掛金・買掛金とは、商品売買の時にしか使わないので、  
それ以外の備品・車両・土地などをツケで売買するときには、  
未収金・未払金をつかうんだ。

売掛金・買掛金と未収金・未払金を使い分ける理由はいいよね？  
ごっちゃにしたら正しい状態を表していることにならないからだね。

注意点としては、なにも「車両や土地が未収金・未払金になる」と  
いっているわけではないから、試験で早合点しないで欲しい。  
八百屋さんにとっては車両や土地は商売の対象ではないので  
ツケで買ったときには未払金になるけど、車屋さんから見れば  
車両は商売なので、売掛金や買掛金を使うよ。  
わかったかな？



# 4. 未収金・未払金

A社はB商店に備品を売却し、代金¥100,000を月末に受け取ること

後でもらえるお金  
だから  
資産の増加

(借方) **未収金 100,000** (貸方) **備品 100,000**

資産の減少

A社は月末になり上記の備品代金¥100,000を小切手で受け取った。

資産の増加

(借方) **現金 100,000** (貸方) **未収金 100,000**

資産の減少



まあ、簡単だよね。

未払金もどうやって処理するかわかっただろうから、スキップするよ。  
このあたりはさーっと流して次に行きましょう！

# 5. 仮払金・仮受金

仮払金とは、出張などで正確にはいくらかかるかわからない場合、「とりあえずこれくらい渡しておくから、おつりは返してね」というときの仕訳だ。

本来の仕訳が行われるまでのとりあえずの勘定なので、相殺されて消えてしまうのが普通だ。

仮受金とは、当座預金などにお金が入ってきているが、その内容がわからないときに使う勘定だ。

これも、内容がわかれば相殺されて消えてしまう。

それでは、具体的に例を見てみよう！



# 5. 仮払金・仮受金

社員に出張費の仮払いとして、¥30,000を現金で渡した。

出張前に、「やっぱり社員に立て替えてもらって後で払うことにする」といえば返してもらえるお金なので、**資産**の増加

(借方) **仮払金 30,000** (貸方) **現金 30,000** **資産の減少**

社員が出張から戻り、仮払額の精算をし、残額¥5,000を現金で経理部に返却した。

**費用**の発生

(借方) **旅費交通費 25,000** (貸方) **仮払金 30,000**  
**現金 5,000**

**資産**の減少

資産の増加

結果的には、仮払金が相殺されるので  
(借方) **旅費交通費 25,000** (貸方) **現金 25,000**  
と同じであることを確認して欲しい。



## 6. 立替金・預り金

これも読んで字のごとく、の勘定だ。

**立替金**は立て替えて上げたお金だから、返してもらえるお金  
つまり、資産だ。

**預り金**は預かっているお金だから、返すべき時に返さなければ  
ならない。

つまり、負債だ。

これは従業員に代わって会社が税金を払う場合、つまり源泉徴収  
をする場合などに使われる勘定だ。

負債と資産を見分ける考え方は身についてきたかな？

では、具体的に見ていく。

立替金は商品売買の仕入諸掛でも出てきたのも思い出して欲しい。



# 6. 立替金・預り金

従業員への給料総額 ¥3,000,000のうち、所得税の源泉徴収分 ¥200,000と従業員への立て替え分 ¥150,000を差し引き、現金で支払った。

費用の発生

給料 3,000,000 (貸方) 現金 2,650,000  
預り金 200,000  
立替金 150,000

資産の減少

負債の増加

このとき以前に、立替金15万/現金15万という仕訳がされていてここでその立替金が消えたというわけだ。  
資産の減少

一つ一つ考えて順を追って考えてみて欲しい。

負債の減少

所得税の源泉徴収分 ¥200,000を小切手を振り出して払った。  
預り金 200,000 (貸方) 当座預金 200,000

資産の減少

本来税金は個人が払うものなんだけど、その処理を会社が肩代わりしてあげているんだ。



# 7. 商品券

次は商品券について説明するよ。

2級以上になるとあまり出てこなくなるんだけど、3級ではよく聞かれるのがこの商品券の仕訳だ。

小切手と同じように、自店で発行した場合と他店が発行した場合は仕訳が異なることに注意して欲しい。

図書券やギフトカードをイメージしてみて！



# 7. 商品券

図書券を発行した時を例に考えてみよう。

①商品券を5,000円分売った

(借方) **現金 5,000** (貸方) **商品券 5,000**

店側から見ると、図書券を売ったときには、売り物の本は引き渡さなくてもいい代わりに、後で5,000円分本を渡さなければいけないので、負債になる。

②自分の店が発行した商品券5,000分で商品を買った。

(借方) **商品券 5,000** (貸方) **売上 5,000**

商品券を通さなければ

(借方) **現金 5,000** (貸方) **売上 5,000**

となっていたところを、商品券を通すことによってこのような仕訳になっていることを理解して欲しい。



# 7. 商品券

③他店発行の商品券で売り上げた。

(借方) **他店商品券 5,000** (貸方) **売上 5,000**

図書券もデパート券でもそうだけど、普通その商品券はいろいろな店で使われて、商品券を買った店で使うとは限らない。

そのようなときには**他店商品券**という資産勘定を使う。

なぜ資産勘定かというと、あとでその券を発行した店に持って行くと、お金にしてもらえるからだ。

④他店発行の商品券を決済した。

(借方) **[現金など] 5,000** (貸方) **他店商品券 5,000**

これはいいだろうか？

では、具体的に見てみるよ。



# 7. 商品券

商品券 ¥ 30,000を発行し、代金は現金で受け取った。

(借方) **現金 30,000**      (貸方) **商品券 30,000**

商品 ¥ 45,000を売り上げ、代金は当店発行の商品券30,000円と他店の商品券20,000円で受け取り、釣り銭は現金で支払った。

(借方) **商品券 30,000**      (貸方) **売上 45,000**  
**他店商品券 20,000**                      **現金 5,000**

上記の他店商品券を交換会で決済した。

(借方) **現金 20,000**      (貸方) **他店商品券 20,000**

この3つの取引を相殺すると、結局

(借方) **現金 45,000**      (貸方) **売上 45,000**

になっていることを改めて確認して欲しい。



# 8. 貸倒引当金

貸倒引当金は、3級のみならず2級や1級でも必ずと言っていいほど出題されている範囲だ。

難しいことではないので、しっかり理解して欲しい。

貸倒とは、得意先(こっちが商品をうってお金をもらう相手)が倒産してしまったり、財政状態が悪くなったりして、売掛金や支払手形などの債権(=後でもらえるお金)が回収できなくなってしまうことのことだ。

得意先が倒産してしまったりすることは、アテにしていたお金が入ってこないということだから、これは結構困ってしまう。そこで、このような貸倒に備えて、ある程度の金額を準備しておく。それを貸倒引当金という。

日商簿記3級では、差額補充法が出ることになっている。

貸倒引当金の設定は決算時に行われる。



# 8. 貸倒引当金

例1

当期末の受取手形残高は¥800,000、売掛金残高は¥1,000,000、貸倒引当金の設定率は2%であり、貸倒引当金の残高は¥20,000である。

$$(800,000 + 1,000,000) \times 2\% = 36,000$$

つまり、貸倒引当金は36,000円の状態です。次の1年に入っておきたいわけだ。

しかし、現実には貸倒引当金は20,000円分しかプールされていない。

そこで、差額の

$36,000 - 20,000 = 16,000$ 円を足して、36,000円プールされている状態にするんだ。

(借方) **貸倒引当金繰入 16,000** (貸方) **貸倒引当金 16,000**

これで負債の貸倒引当金は36,000円分になった。



# 8. 貸倒引当金

例2

当期末の受取手形残高は¥800,000、売掛金残高は¥1,000,000、貸倒引当金の設定率は2%であり、貸倒引当金の残高は¥40,000である。

$$(800,000 + 1,000,000) \times 2\% = 36,000$$

貸倒引当金は36,000円の状態です。次の1年に入っておきたい。ここまでは例1と全く一緒だ。

しかし、現実には貸倒引当金は40,000円分も残っているわけだ。

そこで、差額の

$40,000 - 36,000 = 4,000$ 円は必要以上にプールされているので、その分は戻すんだ。

(借方) **貸倒引当金 4,000** (貸方) **貸倒引当金戻入 4,000**

これで負債の貸倒引当金は36,000円分になる。



# 8. 貸倒引当金

さて、今まで説明してきたのは、  
つぶれるかも知れないから、こちらで非常用のお金を用意しておこう  
というものだった。

次に、実際につぶれてしまったときの処理を考えてみる。

例3

前期に計上した売掛金 ¥20,000 が貸倒れた。  
貸倒引当金の残高は ¥36,000 である。

(借方) **貸倒引当金 20,000** (貸方) **売掛金 20,000**

これで、貸倒引当金の残高は16,000円ということになる。



# 8. 貸倒引当金

例4

前期に計上した売掛金 ¥45,000 が貸倒れた。  
貸倒引当金の残高は ¥36,000 である。

(借方) **貸倒引当金 36,000**      (貸方) **売掛金 45,000**  
**貸倒損失 9,000**

これは見積もっていた36,000円を超えて貸倒れてしまった  
場合の仕訳だ。

超えてしまった分は貸倒損失(貸倒償却)という費用勘定を使う。



# 8. 貸倒引当金

債権を回収できなかったとしても、全額回収できないとしても、一部は回収できることがある。  
最後にこの処理を見ていこう！

例5

前期に貸倒れた¥5,000を現金で回収した。

(借方) **現金 5,000** (貸方) **償却債権取立益 5,000**

ちょっと長い名前なんだけど、「貸倒れたとして償却処理した債権の一部を取り立てた収益」という、意味をそのまま勘定にした名前だ。

よく理解してほしい！



# まとめ

## 1. 債権・債務とは？

債権:あとでお金をもらえる権利

債務:あとでお金を払う義務

## 2. 借入金・貸付金

借りたお金(負債)・貸したお金(資産)

## 3. 手形借入金・手形貸付金

手形を使って借りたお金(負債)・手形を使って貸したお金(資産)

## 4. 未収金・未払金

商品以外のツケ



# まとめ

5. 仮払金・仮受金  
とりあえず渡したお金、とりあえずもらっているお金
6. 立替金・預り金  
立て替えたお金、預かっているお金(源泉徴収など)
7. 商品券  
自店(負債)と他店(資産)で処理が異なる
8. 貸倒引当金  
貸倒に備えてプールしておくお金

理解できたかな？



# 終わりに

お疲れ様、今日はここまで！

今回くらいから、今までの知識を前提とした内容も出てきている。

お手持ちのテキストの該当箇所と照らし合わせながら、  
復習してイメージできるようにしておいてください。

それでは！



# 制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級  
<http://boki3.source-of-information.com/>  
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、  
[info@source-of-information.com](mailto:info@source-of-information.com)  
までお寄せ下さい。